平成３０年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立南港桜小学校

平成３１年３月

（様式１）

大阪市立南港桜小学校　平成３０年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１　学校運営の中期目標

学校教育目標

「みんながつくる　みんなの学校　桜小」を合言葉に、「すべての子どもが安心できる居場所のある学校」をつくる。そのために、学校は授業を開き、地域に開かれた学校づくりを行う。たくさんの、さまざまな大人が子どもとふれあい、かかわり合える学校づくりを行う。そして「自分で考え、自分から動く子ども」「自分も人も大切にする子ども」「失敗を恐れずに挑戦する子ども」の姿をめざす。また、「子どもから学ぶ大人のチーム」「すべての子どもを全教職員で見守るチーム」「できないことは人の力を活用するチーム」「『教える』から『促す』チーム」の教職員チーム（チーム桜）をめざす。

現状と課題

６００人に近い児童数を保持するとともに、コスモタウン地域からの児童数の増加にともない、遠距離からの通学者も増える中、児童の安全確保が課題となる。家庭や地域との連携の強化や防災・減災教育の充実も課題となる。学力学習状況調査の結果から、国語Ａの「読むこと」の正答率が全国比の１０ポイントダウンの状況であり、早急の対応が必要(読書活動を推進していく必要があるため、図書購入（標準の 7000 冊に満たない現状）や書架の購入など)となる。また調査結果に個人差はあるものの、１０年後の社会で生きて働く力、子どもたちがなりたい自分になるために必要な力の育成（「人を大切にする力」、「学びに向かう力」、「自分で考え、表現する力」、「コミュニケーション力」など）を図る必要がある。そのためには、「しんどい子を中心にした学級（学校）づくり」や「ＩＣＴの効果的な活用（ＩＣＴモデル校３年目）」などが課題と考えられる。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

・㊥平成 32 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を１００％にする。

・㊥平成 32 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を９０％以上にする。

・平成 32 年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、家庭・地域との連携を密にとっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５％以上にする。

・平成 32 年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページなどを通して、学校や子どもの様子をよくわかるようにしている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５％以上にする。

・平成 32 年度末の教育アンケートにおいて「**自分も人も大切にできている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を９０％以上にする。

・平成 32 年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、子どもを理解しようと努めている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５％以上にする。

・平成 32 年度末の教育アンケートにおいて「**学校や家庭・地域などで、地震や津波などの災害が起きたときにどう行動したらよいかわかっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を９０％以上にする。

・平成 32 年度末で、地域の人や学生などで学校支援ボランティア（読書・見守り・学習など）に参加する人数をのべ３０人以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

・㊟平成 32 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

・㊟平成 32 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の７割に満たない児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より５ポイント減少させる。

・㊟平成 32 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を２割以上上回る児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より５ポイント増加させる。

・㊟平成 32 年度の小学校学力経年調査における「**学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか**」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

・㊟平成 32 年度の全国体力・運度能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横とび・シャトルランの平均記録を前年度より１０ポイント向上させる。

・平成 32 年度末の教育アンケートにおいて、「**学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５％以上にする。

・平成 32 年度末の教育アンケートにおいて、「**授業はよくわかる**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５％以上にする。

・平成 32 年度末の教育アンケートにおいて、「**自分で考えて、自分から動くことができている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５％以上にする。

・平成 32 年度末の教育アンケートにおいて、「**失敗を恐れずに、挑戦することができている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５％以上にする。

・平成 32 年度末の教育アンケートにおいて、「**運動をするのが好きである**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５％以上にする。

2　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

・平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を９５％以上にする。 **100% ⇧**

・平成 30 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を８５％以上にする。 **92%⇧**

・平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 **2 人→1 人 ⇩**

・平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 **5 人→1 人 ⇩**

学校園の年度目標

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、家庭・地域との連携を密にとっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **90% ⇧**

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページなどを通して、学校や子どもの様子をよくわかるようにしている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８0%以上にする。 **95% ⇧**

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて「**自分も人も大切にできている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **94% ⇧**

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、子どもを理解しようと努めている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **92% ⇧**

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて「**学校や家庭・地域などで、地震や津波などの災害が起きたときにどう行動したらよいかわかっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を７０％以上にする。 **83% ⇧**

・平成 30 年度末で、地域の人や学生などで学校支援ボランティア（読書・見守り・学習など）に参加する人数をのべ２０人以上にする。 **62 人 ⇧**

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

・平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 **4 年** 103.51⇩**102.8**　**5 年** 106.9⇧**108.5** **6 年** 95.5⇩**94.3**

・平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の７割に満たない児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より３ポイント減少させる。

4 年 7.0⇧**10.6**　**5 年** 7.1⇧**7.2**　**6 年** 8.2⇧**19.2**

・平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を２割以上上回る児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より３ポイント増加させる。

4 年 10.0⇧**25.5**　**5 年** 24.5⇧**41.2**　**6 年** 5.5⇧**17.8**

・平成 30 年度の小学校学力経年調査における「**学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか**」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 **66.0→65.6⇩**

・平成 30 年度の全国体力・運度能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横とび・シャトルランの平均記録を前年度より５ポイント向上させる。

反復 男 36.00⇧**42.71** 女 34.19⇧**40.81** シャトル 男 42.03⇧**50.11** 女 34.31⇧**43.49**

学校園の年度目標

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて、「**学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **90% ⇧**

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて、「**授業はよくわかる**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **92% ⇧**

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて、「**自分で考えて、自分から動くことができている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **86% ⇧**

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて、「**失敗を恐れずに、挑戦することができている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **85% ⇧**

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて、「**運動をするのが好きである**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **80% ⇨**

3　本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

・全市共通目標の４項目においては、いずれの目標も大きく達成ができた。なかでも、不登校になる児童については、学校に居場所のある児童が前年度よりも大きく増えており、学校目標である「**すべての子どもが安心できる居場所のある学校**」の達成に向けて前進したと考える。
・学校園の年度目標の６項目においては、これもいずれの目標も大きく達成ができた。めざす子どもの力のひとつである「**自分も人も大切にできている**」の項目においては高い数値結果となった。また、地域人材の発掘においては予想をはるかに上回る人材が発掘でき、「**社会に開かれた教育課程**」の実現にむけての大きな第一歩となった。
・取組内容①の安全で安心できる学校、教育環境の実現では、３項目すべて目標が達成できた。「教室の見える化」が実現でき、授業をより開かれたものにすることができた。児童の情報共有を今後も積極的に行い、「**すべての子どもをすべての大人で見守るチーム桜**」の大人のチームをこれからも目指し続ける。
・取組内容②の地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援では、３項目が目標達成できた。図書館改革は校長経営戦略支援予算（加算）により大きく前進した。ただ終日の開放には至っておらず課題が残る。
・取組内容③の安全で安心できる学校、教育環境の実現では、目標は達成したものの、防災、減災教育のより充実した取組みの必要性を確認し合い、次年度への課題とする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

・全市共通目標の５項目においては、経年調査における７割に満たない児童の割合の目標達成ができなかった。２割以上上回る児童の割合は大きく達成できたことによって、できる児童と苦手な児童との二山現象が起きている。この結果からも子ども同士をどうつないでいくのか、より「**学び合う**」授業づくりが必要である。体力・運動能力の結果はとても高い結果となり大きく目標達成できた。
・学校園の年度目標の５項目においては、いずれの目標も達成ができた。「**自分で考え、自分から動くことができている**」や「**失敗を恐れずに、挑戦することができている**」は、めざす子どもの力として位置づいており、目標達成できたのは、子どもたちが意識できた結果である。
・取組内容①の子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組では、４項目すべて目標が達成できた。なかでも小国教授を招聘しての「**学び合い**」研究では、実践家とのコラボによる学びを深めることができた。また、「**すべての子どもが安心できる居場所のある学校**」づくりにとってのヒントや考え方を教職員とともに考える機会を持つことができた。
・取組内容②の国際社会において生き抜く力の育成では、６項目中、５項目においては目標を達成できた。なかでも次期学習指導要領にある「**プログラミング教育**」については、上田教授による全４回の講義や研修によって、教員自身の「学びに向かう力」を呼び覚ます機会となった。ＩＣＴモデル校として、引き続き全市へ発信できるように研鑽していく必要がある。
・取組内容③の健康や体力を保持する力の育成では、反復横跳びやシャトルランの記録が大きく更新でき、目標達成できた。「運動するのが好きである」は大きな伸びはなく、次年度に向けての課題となる。また健康面での具体的な目標設定を見直していくことも共通理解して進めていく。

（様式２－１）

大阪市立　南港桜小学校　平成３０ 年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 全市共通目標（小・中学校） ・平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を９５％以上にする。 **100% ⇧** ・平成 30 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を８５％以上にする。 **92%⇧** ・平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 **2 人→1 人 ⇩** ・平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 **5 人→1 人 ⇩** 学校園の年度目標 ・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、家庭・地域との連携を密にとっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を 80%以上にする。 **90% ⇧** ・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページなどを通して、学校や子どもの様子をよくわかるようにしている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０%以上にする。 **95% ⇧** ・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて「**自分も人も大切にできている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **94% ⇧** ・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、子どもを理解しようと努めている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **92% ⇧** ・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて「**学校や家庭・地域などで、地震や津波などの災害が起きたときにどう行動したらよいかわかっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を７０％以上にする。 **83% ⇧** ・平成 30 年度末で、地域の人や学生などで学校支援ボランティア（読書・見守り・学習など）に参加する人数をのべ２０人以上にする。 **62 人 ⇧**	**A**

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ・教室の見える化を図るため、各教室の廊下側の窓は透明にして見通しを良くするとともに、安全面を考慮して全面アクリル板として、安全な教室環境を実現する。	

・職員室に情報が集約されるよう、どんな些細なことでも何かあれば職員室に伝えることや「全児童確認ボード」を活用して、最新の児童情報を共有する。 ・不登校児童が安心できる居場所を学校につくるため、全ての教職員で見守る体制をつくる。 指標 ・全通常教室の廊下側の窓を全面透明アクリル板に改装する。 **6月に整備完了** ・週２回の職員朝会で、子どもの情報共有をし、全教職員で早期の課題対応をする。 ・校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。(不登校０を目指す) **５人→1人 ⇩** ・教育アンケートにおいて「**学校に行くのが楽しい**」と肯定的な回答をする割合を８０%以上にする。 **82% ⇧**	B
取組内容②【施策３　地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 ・学校図書館の蔵書を増やし、バーコード化を効率よく利用して、本に触れる機会を増やすことで、読書量を増やし国語力の向上を図る。また、調べ学習の充実や読書に親しむ機会を増やすために、移動書庫による学級間の交流を図る。さらに PTA と地域が連携して、学校図書館の開館日や時間を増やし、子どもだけでなく、大人も本に親しむ環境をつくる。 (校長経営戦略支援予算（加算）の活用) ・生涯学習ルームと連携をして、平日の昼間に子どもたちとコラボした活動を行う。 指標 ・年間の児童の貸し出し冊数の平均を一人 15 冊とする。 **29.8 冊（2 月末現在）** ・毎週 3 回（地域「さくらスマイル」・PTA「大人の図書館」・学校「図書館活性化事業」）終日図書館を開放する。 **昼休みと放課後のみで終日は開かれていない** ・毎月１回生涯学習の活動で大人と子どもがともにふれあう機会をつくる。 **昔遊び・昔の暮らし・船長さん・中国のお話・変面ショー・折り紙教室・外務省・ＬＩＮＥお手紙を書こう・お話会・グランドゴルフ・ペタンク** ・教育アンケートにおいて「**学校は、家庭・地域との連携を密にとっている**」と肯定的な回答をする割合を８０%以上にする。 **90% ⇧**	B
取組内容③【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ・防災、減災教育の充実に向けて、区と連携した「防災・減災カリキュラム」を活用する。 指標 ・教育アンケートにおいて「**学校や家庭・地域などで、地震や津波などの災害が起きたときにどう行動したらよいかわかっている**」と肯定的な回答をする割合を７０%以上にする。 **83% ⇧**	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

① 教室の見える化（全面透明アクリル板）により、教室内が見やすくなり、保護者や教職員から評価が高い。「全児童確認ボード」は毎日の記録が定着して、いつでも状況把握ができるようになり、教職員間の共通理解が高まったものの、その活用を主体的にする必要がある。不登校児童数の急減が達成できた。これは、「すべての子どもを全教職員で見守る」ことができた成果と考える。

② 図書館の年間貸し出し冊数目標が 2 倍を達成できた。図書館を訪れる児童が増えたのは、机と椅子を新調（斬新で洗練されたタイプのもの）したことの効果が大きい。また図書館コーディネーターや

図書館ボランティア（さくらスマイル）の活躍により、図書館が身近で親しみやすい場所となったことも効果のひとつと考えられる。生涯学習ルームとの連携も含めた「子どもと大人がともに学ぶ場」の開拓には「さくらタレントバンク」を開設し、保護者や地域を巻き込む体制づくりを始めた。 ③ 地震や台風など自然災害の多かった今年度において、日頃の避難訓練を活かすことができた。しかし、登校中の地震発生というある意味想定外の災害を経験することで、万一への備え（訓練方法や連絡手段など）の見直しが必要であった。
次年度への改善点
① 「安全で安心できる学校、教育環境の実現」においては、引き続き、「全児童確認ボード」の活用を主体的に行い、情報の発信をして、児童情報の共有をする。また、職員朝会での児童についての共有を徹底していく。不登校児童の対応については、担任一人が抱えることなく、全教職員で見守ることを徹底していく。そして「すべての子どもをすべての大人で見守る」チーム桜の姿を達成するために、教科担任制やシャッフル授業、ローテーション授業などを積極的に取り入れ、様々な大人が関わることのできる環境づくりを推進していく。 ② 「地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援」においては、図書館の活性化（本の増冊、読書環境の整備など）をさらに進めるとともに、「さくらスマイル」や「ＰＴＡ図書館」など地域や保護者と連携しながら読書環境の充実に努める。「子どもと大人が学び合う場」の創造に向けて、「生涯学習とのコラボ」や「さくらタレントバンクの定期的な活用」などを積極的に進めていき、「社会に開かれた教育課程」を推進していく。 ③ 「安全で安心できる学校、教育環境の実現」においては、避難訓練の方法を見直し、「想定外の命を守る学習」にチャレンジする。また、区役所との連携を行い、地域を巻き込んでの防災、減災教育を充実させる。

（様式２－２）

大阪市立　南港桜小学校　平成３０ 年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標（小・中学校） ・平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 **4 年** 103.51⇩**102.8**　**5 年** 106.9⇧**108.5** **6 年** 95.5⇩**94.3** ・平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の７割に満たない児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より３ポイント減少させる。 **4 年** 7.0⇧**10.6**　**5 年** 7.1⇧**7.2**　**6 年** 8.2⇧**19.2** ・平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を２割以上上回る児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より３ポイント増加させる。 **4 年** 10.0⇧**25.5**　**5 年** 24.5⇧**41.2**　**6 年** 5.5⇧**17.8** ・平成 30 年度の小学校学力経年調査における「**学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか**」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 **66.0→65.6⇩** ・平成 30 年度の全国体力・運度能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横とび・シャトルランの平均記録を前年度より５ポイント向上させる。 反復 男 36.00⇧**42.71** 女 34.19⇧**40.81** シャトル 男 42.03⇧**50.11** 女 34.31⇧**43.49** 学校園の年度目標 ・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて、「**学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **90% ⇧** ・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて、「**授業はよくわかる**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **92% ⇧** ・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて、「**自分で考えて、自分から動くことができている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **86% ⇧** ・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて、「**失敗を恐れずに、挑戦することができている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **85% ⇧** ・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて、「**運動をするのが好きである**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **80% ⇨**	**B**

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策５　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ・授業を「教える」から「学ぶ（促す）」に変革していくために、「学び合い」の授業に取り組む。 （校長経営戦略支援予算（基本・加算）の活用） ・学年に応じた「体験活動」を通じて、「学びに向かう力」の育成を図る。 (校長経営戦略支援予算（基本）の活用) 指標 ・「学び合い」のスペシャル講師（東京大学の小国教授）を年３回招聘し、授業研究をする。 **年３回の招聘が実施でき、「学び合い」の基本を学ぶことができた。** ・教育アンケートにおいて、「**学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている**」の肯定的な回答をする割合を８０％以上にする。 **90% ⇧** ・教育アンケートにおいて、「**授業はよくわかる**」の肯定的な回答をする割合を８０％以上にする。 **92% ⇧** ・教育アンケートにおいて、「**学校は地域の人材を活用したり、様々な感性を養う活動や体験的な活動を取り入れたりしている**」の肯定的な回答をする割合を８０％以上にする。**94% ⇧**	**A**
取組内容②【施策６　国際社会において生き抜く力の育成】 ・ICT を活用した教育やプログラミング教育に取り組み、子どもの思考力や表現力を育てる。 （学校教育 ICT モデル校３年目）（校長経営戦略支援予算（加算）の活用） ・毎週の英語のモジュール授業に取り組み、基礎基本の英語を大切にしていく。 指標 ・校内調査において「タブレットを使うと、自分の意見や考えをわかりやすく説明することができる」の肯定的な回答をする割合を７０％以上にする。 **82% ⇧** ・校内調査において「タブレットを使うと、自分の考えや調べたことをわかりやすくまとめることができる」の肯定的な回答をする割合を８０％以上にする。 **88% ⇧** ・校内調査において「タブレットを使うと、新たな気づきを得て、考えを深めることができる。」の肯定的な回答をする割合を７０％以上にする。 **82% ⇧** ・「プログラミング教育」のスペシャリスト（同志社女子大学の上田教授）を年３回招聘し、「プログラミング的思考」や「Growth Mindset(しなやかな考え方)」の基礎を学ぶ。 **年３回の招聘を実施し、プログラミング的思考の基本的な考え方を学ぶことができた。** ・教育アンケートにおいて、「**失敗を恐れずに、挑戦することができている**」の肯定的な回答をする割合を８０％以上にする。 **85% ⇧** ・教育アンケートにおいて、「**英語の学習は楽しい**」の肯定的な回答をする割合を８０％以上にする。 **72% ⇩**	**B**
取組内容③【施策７　健康や体力を保持する力の育成】 ・体育科の授業を中心に、各種学習カードを活用するなど、より進んで体力づくりに取り組む。 指標 ・全国体力・運度能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横とび・シャトルランの平均記録を前年度より５ポイント向上させる。	**B**

反復㊚36.00⇧**42.71**㊛34.19⇧**40.81** シャトル㊚42.03⇧**50.11**㊛34.31⇧**43.49** ・教育アンケートにおいて、「**運動をするのが好きである**」の肯定的な回答をする割合を８０％以上にする。 **80%** ⇨	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 「学び合い」の授業改善は、小国教授からの学びや田中副校長（信州大学長野小）の実践的学びを通して、チャレンジする教員も増えて、広がりをみせている。「話し合う活動」や「授業がよくわかる」「地域人材の活用」の目標達成状況は高く、学年に応じた「体験活動」の成果の表れだと分析する。 ② 「ＩＣＴモデル校」の３年目を終え、機器操作や活用に成果も表れ、アンケート結果にも反映されている。「プログラミング教育」は上田教授はじめゼミ学生との協同研究を積み重ねて、教員の困り感の払拭と、やってみようとする意欲を高めることができた。英語でモジュール授業に取り組んだものの、アンケート結果が芳しいものではなかった。しかし、今後も継続した取組みを行い、さらなる教員全体の意識改革の必要性や教材づくりなどが課題である。 ③ 体力運動能力の結果は目標を大きく越えて達成できた。運動をするのが好きな子どもの割合が目標以上にはならず、運動することの魅力や楽しさを感じ、さらなる体力づくりができる必要がある。
次年度への改善点
① 「子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組」においては、引き続き「学び合い」の授業づくりについて研修や実践を深める。講師としては小国教授（東京大学）に継続して指導を仰ぎながら、「学び合い」の実践に向けて、互いの授業を交流する。「学び合い」を通して、「しんどい子に寄り添った授業づくり」や「主体的・対話的な深い学びの実現」に向けて研鑽していく。「自分で考えて、自分から動く」ことができる子どもの育成に努める。 ② 「国際社会において生き抜く力の育成」においては、「ＩＣＴ教育」や「プログラミング教育」や「英語教育」は必須事項と考える。特に「プログラミング教育」については、今年度の学びを継続していくためにも上田教授（同志社女子大学）との協同研究を行い、「協同的・創造的思考家（クリエイティブシンカー）を育てる」をテーマにグループ研究に取り組む。「失敗を恐れずに、チャレンジする」ことができる子どもの育成に努める。 ③ 「健康や体力を保持する力の育成」においては、体力運動能力調査も視野に入れて、目標数値を設定して、体育授業を基本にして、休み時間や体力づくりの取組みを工夫しながら、より進んだ体力づくりに取り組む。また、保健や給食の取組みについても目標設定していく。

（様式３）

平成３０年度　　学校関係者評価報告書

大阪市立　南港桜小学校　学校協議会

1　総括についての評価

全般において、特に問題なく、目標数値がほぼクリアしており、課題も明確化されている。

2　年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

全市共通目標（小・中学校）

・平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を９５％以上にする。 **100%** ⇧

・平成 30 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を８５％以上にする。 **92%**⇧

・平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 **2 人→1 人** ⇩

・平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 **5 人→1 人** ⇩

学校園の年度目標

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、家庭・地域との連携を密にとっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を 80%以上にする。 **90%** ⇧

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページなどを通して、学校や子どもの様子をよくわかるようにしている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８0%以上にする。 **95%** ⇧

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて「**自分も人も大切にできている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **94%** ⇧

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、子どもを理解しようと努めている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。 **92%** ⇧

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて「**学校や家庭・地域などで、地震や津波などの災害が起きたときにどう行動したらよいかわかっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を７０％以上にする。 **83%** ⇧

・平成 30 年度末で、地域の人や学生などで学校支援ボランティア（読書・見守り・学習など）に参加する人数をのべ２０人以上にする。 **62 人** ⇧

すべての項目において、目標が達成されており、特に意見はない。引き続きの向上を期待する。

年度目標：**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

全市共通目標（小・中学校）

・平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。**4 年** 103.51⇩**102.8**　**5 年** 106.9⇧**108.5** **6 年** 95.5⇩**94.3**

・平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の７割に満たない児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より３ポイント減少させる。

4 年 7.0⇧**10.6**　**5 年** 7.1⇧**7.2**　**6 年** 8.2⇧**19.2**

・平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を２割以上上回る児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より３ポイント増加させる。

4 年 10.0⇧**25.5**　**5 年** 24.5⇧**41.2**　**6 年** 5.5⇧**17.8**

・平成 30 年度の小学校学力経年調査における「**学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか**」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。　**66.0→65.6⇩**

・平成 30 年度の全国体力・運度能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横とび・シャトルランの平均記録を前年度より５ポイント向上させる。

反復 ㊚36.00⇧**42.71** ㊛34.19⇧**40.81**

シャトル ㊚42.03⇧**50.11** ㊛34.31⇧**43.49**

学校園の年度目標

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて、「**学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。　**90%** ⇧

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて、「**授業はよくわかる**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。　**92%** ⇧

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて、「**自分で考えて、自分から動くことができている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。**86%** ⇧

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて、「**失敗を恐れずに、挑戦することができている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。　**85%** ⇧

・平成 30 年度末の教育アンケートにおいて、「**運動をするのが好きである**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。　**80%** ⇨

経年調査結果に課題が見られるものの、概ね目標が達成されている。体力向上に大きな結果が見られており、引き続きの実践を期待する。

3　今後の学校園の運営についての意見

大阪市としての様々な施策がある中で、目の前の子どもにとってを一番に、「スクラップ＆ビルド」の精神で学校運営を進めることを願う。